

令和4年度 江戸川区立松江第五中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○よく学び、深く考えた行動のとれる生徒の育成 ○心身ともに健康で、思いやりの心をもった生徒の育成 ○責任を重んじ、自主性に富んだ生徒の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	●「互いのよさを認め合い誰もが輝ける学校 ～生徒も、教職員も保護者も地域も～」を築くことで、学校の教育目標を達成する。 ●「自ら考え、表現し、仲間とともに高め合える生徒、自ら課題を発見し、課題解決に向けて行動できる生徒、心と体の健康を大切にし、たくましく成長しようとする生徒)を育て、学校の教育目標を達成する。 ●「人権尊重の精神に富む教師、生徒や保護者や同僚からも信頼される教師、魅力あふれる授業を実践する教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師」を目指し、学校の教育目標を達成する。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・一人一人の生徒のよさを生かしたさまざまな活動の工夫により、前向きに活動する生徒が増えた。 ・オリパラ講演会においてオリリンピックを呼びよい講演会ができた。 ・コロナ禍においても運動会や文化祭、卒業式を工夫して実施できた。 ＜課題＞・特別な支援を要する生徒に対する指導と対応。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	1 教員の学習指導力向上に向けた校内研修を実施する。 2 小グループで意見を出し合う、比べ合う、まとめる過程を重視した授業を取り入れる。 3 一人一台端末を活用した授業公開を実施する。 4 外部講師による補習教室を実施する。	1 教員の学習指導力向上に向けた校内研修を年に3回実施 2 小グループで意見を出し合う、比べ合う、まとめる過程を重視した授業を毎時取り入れる。 3 一人一台端末を活用した授業公開年間3回実施 4 外部講師による補習教室を毎日実施	A	A	1 各教科での指導方法の工夫改善に向けた校内研修を各学期に実施することができた。 2 授業観察において各教科での小グループによる話し合い活動、発表活動が実施されていることが確認した。 3 約8割の教科で一人一台端末を活用した授業を公開できた。 4 外部講師による補習教室を毎日実施している。	A	1 新しい教育の在り方、学校教育の方向性に変化している中で適切に対応していることがわかる。 2 昔と違い小グループでの話し合い活動が実施されており、堂々と発表する生徒に驚かされる。 3 一人一台端末(iPad)を活用した授業が多くの教科で実践されていてすばらしいと感じた。 4 毎日数人であるが補習教室に学習している生徒がいることを知った。今後も継続してほしい。	1 校外での研修会への教員派遣を推進する。 2 取組状況を動画として記録する等により、他の教員への研修資料として保管していく。 3 一人一台端末の活用をさらに推進する。 4 外部講師による補習教室の取組について検証をどうしていくか。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	1 保健体育科(実技)の授業で授業開始時の5分間で「補助運動」を毎回入れる。 2 レクリエーションや体力づくりを目的としたヨガ部を設置し、活動する。 3 部活動の指導者として外部人材を活用し、体力向上のための活動を実施する。	1 保健体育科(実技)の授業で授業開始時の5分間で「補助運動」を毎回入れる。 2 レクリエーションや体力づくりを目的としたヨガ部を設置し、月に1回程度活動する。 3 部活動の指導者として外部人材を活用し、体力向上のための活動を週に4回実施する。	A	A	1 保健体育の授業開始時に「松玉体操」を補助運動として取り入れ毎回実施し、生徒は意欲的に取り組んでいる。 2 ヨガ部を新設できた。特別支援学級を対象としているので、対象を今後増やす方法を工夫する。 3 部活動の指導者として陸上競技の専門家を外部人材を活用できた。放課後の活動を充実させることができた。	A	1 授業開始時ではあるが、運動量のある「松玉体操」で手足から胴体、頭部にまでそして運動強度まで考えられているようでとても感心した。 2 ヨガ部では教職員も生徒も年齢や体力の差に関係なく楽しみなが参加しているのでよい取組である。 3 地域からさらなる支援者を募って、体力向上に向けて尽力していただきたい。	1 伝統としての松玉体操の取組をどう継承していためのマニュアルを作成する。 2 ヨガ部等のさらなる充実に向けた環境整備をする。 3 部活動指導者の確保を年内にすすめるための計画を作成する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	1 自らのよさをどのように社会に生かしていくべきかという探究的な視点で読書活動を推進し、お勧め本紹介カード作成や学芸大会に向けた自身の考えをまとめ発表する機会を設ける。 2 図書スケーパーバイザーと図書ボランティアによる学校図書館整備を行う。	1 お勧め本紹介カード作成や学芸大会への取組と自身の考えをまとめ発表する機会を各学期に実施する。 2 図書スケーパーバイザーと図書ボランティアによる学校図書館整備を月に1度実施する。	B	B	1 お勧め本紹介カードの準備、学芸大会への取組と関連させ探究的な学習とつながった。今後制作物として学習作品展で発表することができた。 2 学校図書館の整備は月に1度実施しており、順調である。	A	1 一学期は修学旅行や宿泊学習、運動会等もあり、関連した事項について調べること時間をとることができたが地域や保護者に発表する機会を増やせるとさらによい。 2 継続して実施してほしい。	1 道徳科の推進にかかわる分掌と担当者の明確化 2 図書担当教員の負担軽減と区立図書館との連携するための年間計画を当初に明確にする。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	1 個別支援計画の確認、見直しを行う。 2 教室に入れない生徒の居場所としてエンカレッジルームの環境整備を実施する。 3 通常学級と特別支援学級との交流教育をすべての学校行事に意図的に組み込む。また副籍交流については文化的教育活動において交流する。	1 個別支援計画の確認、見直しを学期に1回実施する。 2 教室に入れない生徒の居場所としてエンカレッジルームの環境整備を毎月実施する。 3 通常学級と特別支援学級との交流教育をすべての学校行事に意図的に組み込む。また副籍交流については文化的教育活動において学期に1回交流する。	A	A	1 特別支援委員会を中心とした個別支援計画について、確認、見直しを行うことができた。 2 エンカレッジルームのフルに活用し、生徒の指導に役立てている。今後も継続していく。 3 体育的行事、文化的行事、儀式的行事を通して、特別支援学級、副籍生徒との交流教育を実施した。	A	1 様々な生徒に対応した指導計画をもとに組織として対応していることはとてもよいことである。今後とも支援教育の充実に尽力していただきたい。 2 エンカレッジルームという部屋が複数あり、生徒の居場所として活用することは大変よいことである。 3 行事での交流と共に授業での交流もさらに推進していただきたい。	1 学校LAN内で閲覧する週間の確立 2 エンカレッジルームの部屋数が不足した時の教員体制の確立 3 日常的な活動における交流教育の充実
	子どもたちの健全育成の推進	・子どもたちの健全育成に向けた取組の強化	1 hyper-QU活用した校内研修会を実施する。 2 hyper-QUを実施後の診断結果のWEB サービスを毎回活用し、各担任のさらなる理解を深める。 3 スクールソーシャルワーカーとの連絡協議会を実施する。 4 校内PCを活用した情報共有を図る。	1 hyper-QU活用した校内研修会を年に2回実施する。 2 hyper-QUを実施後の診断結果のWEB サービスを毎回活用し、各担任のさらなる理解を深める。 3 スクールソーシャルワーカーとの連絡協議会を月に1回実施する。 4 校内PCを活用した情報共有を毎日実施する。	A	A	1 hyper-QU活用した校内研修会を年に1回実施した。 2 hyper-QUを実施後の診断結果のWEB サービスを活用し、各担任が理解を深めた。 3 特別支援委員会を中心にスクールソーシャルワーカーとの連絡協議会を月に1回実施している。 4 校内PCを活用して情報共有を毎日図っている。	A	1と2 あらゆる活用手段により今後も継続した生徒理解に努めてください。 3 スクールソーシャルワーカーとの連携した生徒対応について今後も継続してください。 4 新しい情報ツールを大いに活用して生徒指導に生かしてください。	1 hyper-QU実施後の継続した生徒へのアプローチとその工夫 2 1と同様
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	1 学校評議員との協議会を実施する。 2 学校公開(通常の授業参観等)の実施方法を工夫する。 3 学区関係者評価の報告書をHPにて公表する	1 学校評議員との協議会を学期に1回実施する。 2 学校公開(通常の授業参観等)を年に3回実施する。 3 学区関係者評価の報告書をHPにて年に2度公表する	A	A	1 学校評議員協議会を年3回計画したが参加者が少なかった。 2 学校公開(通常の授業参観等)を年に2回実施した。 3 学区関係者評価の報告書をHPにて9月に公表する。	B	1 外部から参加しやすい雰囲気を作り出していたが感謝しております。可能であれば今後、学校評議員会は土曜日に実施していただけるとお嬉しいです。 2と3 継続してお願いします。	1 学校評議員委員会は土曜授業の日に設定する。 2 学校公開における参観者からの声をICTを活用して収集する工夫 3 継続する
	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	1 学校LANを活用した打ち合わせ、会議時間の短縮 2 教師用一人一台端末を活用した運営の工夫 3 教師用一人一台端末による意見集約のアプリ活用による教員の労力軽減	1 学校LANを活用し資料を閲覧する方法での職員会議の時間を30分以内に短縮する。 2 学校LANの掲示版を活用し、職員朝会での発言を限定し、5分以内で終わらせる。 3 教師用一人一台端末による意見集約のアプリ活用による教員の労力軽減	A	A	1 学校LANを活用し職員会議の時間を30分以内短縮できた。 2 学校LANの掲示版を活用により、職員朝会の時間が5分以内で終了するようになった。 3 教師用一人一台端末による意見集約のアプリ活用による教員の労力軽減	A	1と2 会議の短縮は集中力の向上につながりますので今後も推進をしてください。 3 江戸川区はiPadを活用しているようですが、SNSによる課題が多い中、工夫しながら対応していること	1 職員会議等の時間が短縮されているので今後も継続して実施していく。 2 職員朝会の時間が大幅に短縮されたので今後も継続していく。
特色ある教育の展開	誰もが輝ける特別活動の工夫	教育情報の積極的な発信のための具体的な取組実施	1 学校だより、学年だよりを積極的に発行する。 2 ホームページの「学校日記」を積極的に更新する。 3 ホームページからの動画配信を編集して発信する。	1 学校だよりを月に1度、学年だよりを週に1度発行する。 2 ホームページの「学校日記」を更新を毎日行う。 3 学校行事や教育活動の動画を個人情報配慮した編集を行い、毎回配信する。	A	A	1 学校だよりを月に1度、学年だよりを週に1度発行できている。 2 ホームページの「学校日記」毎日している。 3 学校行事や教育活動の動画を個人情報配慮した編集を行い、毎回配信している。	A	1 学校だより、学年だよりの発信が丁寧で学校の様子がよくわかります。 2 ホームページが大変充実しております。 3 動画による発信も毎回楽しみにしています。	1 学校だより、学年だよりともに順調に発行できている。今後も継続していく。 2 ホームページへのアクセス数が増加している。今後も継続する。 3 順調に配信できている。
	開かれた学校づくりの推進	開かれた学校づくりの推進への具体的な取組の実施 □	1 地域や保護者、教職員、生徒からの教育活動への提案事項や協力者をホームページから募集する。 2 学校と地域の橋渡しとして生徒会の活動(お便り配達活動)を行う。	1 学校教育への協力者への表彰式を3学期に実施する。 2 お便り配達活動をする生徒「たちばな隊」を結成し、学校評議員、保護司、民生児童委員等への配達を月には行行う。	A	A	1 学校教育への協力者への表彰式が実施できた。 2 お便り配達活動をする生徒「たちばな隊」を結成した。 3 学校行事や教育活動の動画を個人情報配慮した編集を行い、毎回配信している。	A	1 地域連携がとてもよくできています。今後も継続していただきたい。 2 学校だよりを生徒に貢献活動として配達させている取組(たちばな隊の発案)がすばらしいです。さらなる活躍を期待しています。	1,1日校長の会を開催し学校と地域との連携を発信する機会を設定できた。次年度も継続する。 2 たちばな隊等生徒の活躍を地域から評価していた全校集会を3学期に実施できた。次年度も継続する。